

## 分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート 【2023年度実績】

項目	1 子どもに寄り添うまちづくり
目指す姿	子ども目線に寄り添い、一人ひとりの子どもの健やかな育ちを地域が一体となって望み、実現するまちを目指します。
取り組み方針	
<p>すべての子どもが、心身ともに健やかに、地域や周囲とつながりを持って、自分らしく育つための取り組みを充実します。</p> <p>●子どもの権利が損なわれることのない地域環境の構築に努め、未来をたくましく生き抜くための基盤づくりとして、学力や体力、意欲の底上げを強化します。</p> <p>●子どもの自己肯定感や郷土心を育む活動を充実します。</p>	

### 1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	前期最終 (2023年度)	説明
①子どもが被害者となる事件の件数	—	0件	0件	0件	町で把握
②全国学力学習状況調査で正答率が全国平均の5割に満たない児童生徒の割合	10.6%	減少↘	12.1%	4.4%	全国学力学習状況調査質問用紙
③運動を好きな子どもの割合	84.5%	増加↗	86.9%	88.2%	全国体力運動能力運動習慣等調査質問用紙
④自己肯定感の高い子どもの割合	86.0%	増加↗	82.4%	73.7%	全国学力学習状況調査質問用紙
⑤鷹栖町を好きな子どもの割合	84.5%	増加↗	—	—	学校アンケート

### 2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円) ※2024年度は予算額

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
地域や家庭とともにつくる学校運営の推進	3,923	4,411	4,167	4,457	5,427	22,385
児童生徒健全育成事業	891	210	0	134	531	1,766
コーディネーショントレーニングを生かした感性を育む教育活動	842	3,223	0	0	0	4,065
子どもの多様なスポーツ環境整備事業	0	302	876	3,645	4,777	9,600
まちを理解し郷土愛を育むふろさと体験活動	29	72	114	104	132	451
青少年健全育成事業	413	170	116	431	755	1,885

### 3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				想定される 理由	評価指標5つのうち、現時点で目標値を上回っているのは2項目、下回っているのは2項目、未計測が1項目。新型コロナによる環境の変化が、評価指標項目にもたらず影響も懸念される。
目標値 達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で達成できる。 <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい				根拠	いずれの評価指標も計画完了時点の数値が上回ることを目指しており、長期的な展望に基づく、毎年度の取り組みの積み重ねを基盤としながら、コロナ禍など子どもたちを取り巻く社会変化への適切な対応をとりつつ、目的の実現に向けた事業を継続する。
前期期間 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				理由	中間時から、目標値達成が1項目増えており、一定の成果は見られているが、前期期間を総合的に見ると、全体としては「向上」まで至らなかった。
前期期間 目標値 達成状況	<input type="checkbox"/> 目標が達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 一部の目標が達成できた <input type="checkbox"/> 目標達成はできなかった				根拠	すべての評価指標において、数値的に明確に出ている。中でも指標④の自己肯定感については10%以上の減少となっている。コロナ禍による子どもたちの生活変化等の影響も考えられるが、後期期間に向けて対策を講ずべき項目となっている。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	<p>評価指標について、目標の達成状況にバラつきはあるが、スクールソーシャルワーカーの設置による支援や小中学校を中心としたふるさと共育の推進など、新たな取り組みが構築できた項目もある。一方で、子どもを取り巻く環境のコロナ禍による変化の影響は大きなものであり、自己肯定感の低下など大きな課題点も見えている。学校では制限がかけられた中での活動期間が長く、家庭教育や社会教育の役割を再認識し、町全体の教育体制の在り方を考える期間でもあった。</p>					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
			○			

#### 4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

<p>評価</p>	<p>子どもの安全・安心を守る部分では、学校内でのスクールソーシャルワーカーの設置や、教職員、地域、行政が一体となった見守り活動が実施されており、継続して取組ことが望ましい。</p> <p>学力については、特別支援の児童が学年によってバラツキがあり、現状の学力テストを評価指標として判断するのは難しい。学年によって変化が出てしまう部分は改善が必要。学習支援員等の配置は一定の効果があるのであれば継続すべき。</p> <p>自己肯定感については、複数の事業が関わってくるため、一概にこの事業を改善すべきとは言えないが、低くなっている現状をふまえたアプローチの検討が必要。</p> <p>運動については、数値の向上が図られており、さらにステップアップした事業展開による目標を設定するのが望ましい。</p>					
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>	<p>A: 実現した                  B: (策定時と比較して)大きく前進した                  C: (策定時と比較して)前進した                  D: (策定時と比較して)変わらない                  E: (策定時と比較して)後退した</p>
			○			

#### 5. 後期計画に向けて（総合振興計画策定委員会）

<p>取り組み方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「事件」という標記では、曖昧な部分が多い。どの事業が関連しているのか、どの取組による成果なのか、つながりが見えてくる事業内容と評価指標が必要。</li> <li>■自己肯定感は様々な事業が関わってくる。青少年健全育成事業など。比布町では子どもたちのアイデアを町のイベントで実現した事例がある。多世代が交わる事業のさらなる展開など、向上に向けた取り組みが必要。</li> <li>■総合型地域スポーツクラブの役割も大切になってくる。文化系も含めた部活動地域移行も検討しなければならない中、目的や役割を明確にして取組を進めるべき。</li> <li>■不登校対策で大学との連携が図られたのは良いと感じる。大学生との関わりは子どもたちにとってもプラスになる。</li> <li>■eスポーツが急速に広まった。子どもたちの世代は世界的に人気であり、インターネットによるコミュニケーションなど、これまでになかった観点も組み込みが必要。</li> </ul>
<p>評価指標の設定</p>	<p>【評価指標①】</p> <p><input type="checkbox"/>単なる「事件」の標記ではなく、具体的な場面をふまえた設定が望ましい。</p> <p>【評価指標②】</p> <p><input type="checkbox"/>学年によって差が生じるため、評価しにくい項目。</p> <p><input type="checkbox"/>同じ児童・生徒を対象に比較するなど、変化が分かりやすい数値の検討が必要。</p> <p><input type="checkbox"/>学習支援員等を配置したことでの効果が見える指標があると良い。</p> <p>【評価指標③】</p> <p><input type="checkbox"/>総合型地域スポーツクラブの成果として設定できる指標が望ましい。</p>

## 分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート 【2023年度実績】

<b>項目</b>	<b>2 健康のまちづくり</b>
<b>目指す姿</b>	社会情勢の変化に対応した健康づくりの取り組みを推進し、あらゆるステージで切れ目なく、健康を実感できるまちを目指します。
<b>取り組み方針</b>	
<p>「身体的、精神的、社会的に満たされた健康状態」を実現するため、広く各分野の施策を連動して取り組みます。</p> <p>●「体の健康」「心の健康」「社会的役割や地域とのつながり」を、ライフステージごとにそれぞれ実現できる環境を切れ目なく構築するため、町の健康づくりに関する取り組みを分野横断的に整理して、町民に周知を進めます。</p> <p>●健康について学びを深め、取り組みのきっかけとなる講演や講座を、世代に応じて参加しやすい仕組みで開催します。</p> <p>●個人にとっても有益な情報である健康に関するデータの蓄積を、有効活用する仕組みづくりを進めます。</p> <p>●インセンティブを付与する制度の構築など、健康な行動に向かうための行動変容のアプローチの強化を図ります。</p>	

### 1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	前期最終 (2023年度)	説明
①ライフステージごとに整理した健康づくり支援の取り組みの公表	-	公表	未公表	未公表	町で公表
②健康データを活用する仕組みの構築	-	構築	構築	構築	学校健診結果等の電子化へ取り組み着手
③健康に向けた行動変容を促す新たなアプローチの構築	-	構築	構築	構築	官民連携型健康プロジェクトに着手
④普段から健康を意識して生活している人の割合	-	70%以上	-	55.9%	後期計画アンケート「スポーツ活動や健康づくりへの取組参加」

### 2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
各種健康診査事業	10,747	10,972	11,521	11,142	13,971	58,353
生活習慣病対策事業	563	399	525	544	902	2,933
運動習慣化事業	5,410	8,623	16,337	12,289	11,534	54,193
子どもの多様なスポーツ環境整備事業	0	302	876	3,645	4,777	9,600

### 3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した		想定される 理由	評価指標の②③に関しては、それぞれ新たな仕組みを構築する事業を進めてきたところであり、今後その活用局面によって、成果の発現が期待できる。		
目標値 達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい		根拠	インセンティブを活用し、町内事業所にも参加を呼び掛けた健康プロジェクトの実践など、新規の取り組みが一定程度進捗している。実証段階から広く普及展開されていく段階で、実証効果を検証しながら、効果的な改善を図っていくことで、事業成果を最大化していくことを見込む。		
前期期間 成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した		理由	新たな取組「健康ポイント」では、教育と福祉の各種事業をつなぎ合わせた、運動×健康づくりの新たなアプローチができています。多世代が運動・健康づくりに取り組める総合型地域スポーツクラブが設立されたことで、今後のさらなる発展が見込まれる。		
前期期間 目標値 達成状況	<input type="checkbox"/> 目標が達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 一部の目標が達成できた <input type="checkbox"/> 目標達成はできなかった		根拠	評価指標②③は、健診結果の電子化によるアプリでの還元、健康ポイントやウォーキングプログラムの実施により構築が図られた。①④は達成には至らなかったが、総合型地域スポーツクラブの設立により基盤づくりは図られた。		
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	評価指標②では幼少期からの健康データを活用する仕組みを前期期間当初から導入でき、アプリによって個人も閲覧できるシステムが構築された。ただ、中間評価で指摘のあった導入後の活用状況についての把握までは至っていない。③では働き世代への行動変容を促すアプローチから、具体化した事業の構築につながり、改善を図りながら継続できている。①④は評価指標の達成には至らなかったが、総合型スポーツクラブの設立により、多世代が運動・健康づくりに取り組める環境が整備された。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
		○				

#### 4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

<p>評価</p>	<p>評価指標①は特色ある取り組みであり、進んでいる取り組みを整理したうえで公表されることを望む。健康ポイント事業など、教育と福祉が連携した取り組みは非常に良いものであり、ぜひ町民に対しても取り組んできた事業の成果として見える化を図るべきである。 健康データは構築できたものの、その先の目標設定が無いのがもったいない。活用して何をすべきなのか明確にしなければ、構築した意味が薄れてしまう。これからのアウトカム指標の設定が望ましい。</p>					
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>	<p>A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した</p>
		○				

#### 5. 後期計画に向けて（総合振興計画策定委員会）

<p>取り組み方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 乳幼児健診、学校健診のデータについては、なぜ蓄積するのか意味を持たせた事業へと発展させていくべき。最終的な健康維持に向けた整理が必要。</li> <li>■ 特定健診受診率は、町の健診以外で受診した方のデータ収集も含まれているので、どういうデータが必要か周知も強化し取り組みを進めてみては。</li> <li>■ 健康ポイント事業など、利用は高齢者の割合が高いと感じる。若い世代、働き世代が取り組みたくなるような仕掛けも必要。利用している世代の分析も行うべきでは。</li> <li>■ 健康寿命の取り組みは、保健師による保健指導を含めたアプローチの成果でもある。その成果が見えて、より推進していくような方針が良いのでは。</li> <li>■ 介護予防の観点からも、フレイルは歯から始まると言われている。歯科相談、健診により力を入れるのも良い。</li> </ul>
<p>評価指標の設定</p>	<p><input type="checkbox"/>すでに構築できているものは、先のステップを見据えたアウトカムとしての指標設定が望ましい。</p> <p><input type="checkbox"/>中心的な取組でもある、健康ポイント事業に関する指標を設定してはどうか。可能であれば、50ポイントの交換者数ではなく、取り組んでいる人数を設定できると良い。</p>

## 分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート 【2023年度実績】

項目	<b>3 農業資源を生かしたまちづくり</b>
目指す姿	本町の農業資源を、食・観光・交流・教育など様々な分野で生かしていくことで、農業のまちとしての魅力を高めていくことを目指します。
取り組み方針	
<p>農業者と非農業者との交流と理解を促進し、互いに寄り添い支える関係づくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●町民が、町産の農産物を購入しやすい環境づくりを進めます。</li> <li>●農業資源を生かして、グリーンツーリズムやワーキングホリデー、移住体験の受け入れなど、都市部住民との交流や関係づくりを進めます。</li> <li>●子どもたちの農業体験教育の充実や、福祉的課題に農業を生かす取り組みの検討を進めます。</li> </ul>	

### 1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	前期最終 (2023年度)	説明
①町民が町内農産物を購入しやすい仕組みの構築	-	構築	構築	構築	直売マップ、マルシェ等で取り組み
②農業を生かした体験型観光実施箇所数	4カ所	増加↗	5カ所	5カ所	町内実施箇所数を町で把握
③農業体験実施後に引き続きまちに関わる意思を持った人数	-	40人	20人	40人	体験参加者がふるさとサポーター登録等の継続的な関わりに至る方を把握
④幼児から高校まで段階に応じた農育プログラムの構築	-	構築	未構築	未構築	町内の幼小中高との連携

### 2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円) ※2024年度は予算額

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
農業体験交流推進事業	9,463	10,094	10,135	8,130	10,817	48,639
農業者と非農業者をつなぐプラットフォーム創造事業	0	0	0	0	0	0
多様性と付加価値を高める農業推進事業	0	0	0	73,560	0	73,560
農村資源を生かした体験型観光の推進	0	0	0	0	0	0
観光資源活用ネットワーク化推進事業	3,860	6,578	5,295	3,229	5,970	24,932

### 3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した		想定される 理由	直売マップの制作や農業体験事業者の拡充、農育プログラムの推進、農福連携など、新たな取り組みが進んでいる。今後、さらに推進することにより、一層の成果の発現が期待できる。		
目標値 達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成できる。 <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい		根拠	農業の多様な分野における価値化を目指し、体験交流、観光、教育、福祉など、複数の分野で農業との掛け合わせによって新たな広がりが見えつつある。評価指標の到達度も順調に推移しており、取り組みを継続していくことで、前期計画期間内で一定の成果を期待できる。		
前期期間 成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した		理由	中間時に取り組んでいた農福連携、たかすマルシェの継続的な開催により、一定程度の成果向上は図られた。すべての目標値達成には至っていないものの、取り組みとしては前進している事業もあり、総合的に成果は向上したとの評価。		
前期期間 目標値 達成状況	<input type="checkbox"/> 目標が達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 一部の目標が達成できた <input type="checkbox"/> 目標達成はできなかった		根拠	指標①②③においては達成、④は未達成の状況である。農業体験や農育プログラムの構築については、コロナ禍による活動自粛や教育機関の活動制限の影響があった。		
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	評価指標①は、マップの作成のほか、たかすマルシェが継続開催されるなど、継続的な事業展開が図られている。②③においても、策定時から増加し目標達成ができています。②はモニターツアー実施など新たな動きが始まり、③は域外から特に大学生の関わりが広まりを見せています。④はコロナ禍の影響もあるが、期間中に事業効果を生み出しきれていない状況であった。外部団体との連携にあたっては、双方にメリットが出る、負担を感じない持続的な仕組みづくりを検討していく必要がある。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
		○				



#### 4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

<p>評価</p>	<p>農産物の購入では、たかすマルシェの開催等で構築とはなったが、開催回数がやや減ったように思う。PRも含めて、より周知を図ってほしい。          体験型観光の箇所数は、外部から人が流入することによる、農作物への影響（病気、誤った収穫方法など）を懸念する農家もいる。箇所数の増加は喜ばしいが、今後どう増やしていくかは課題。          農育プログラムは構築に至っていないが、高校の職場体験などで受け入れている場所もあり、行政が仲介することでより推進できる可能性はある。</p>					
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>	<p>A: 実現した          B: (策定時と比較して) 大きく前進した          C: (策定時と比較して) 前進した          D: (策定時と比較して) 変わらない          E: (策定時と比較して) 後退した</p>
		<p>○</p>				

#### 5. 後期計画に向けて（総合振興計画策定委員会）

<p>取り組み方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンケートを見ても、農産物の購入について満足度は低い。市街地活性化において、地場産品を購入できる場がつくれるなど、対策が講じられることを望む。</li> <li>■ 町内で売る場ができれば、ネットワークを構築して様々な農産物を取り扱う仕組みづくりもできる。道の駅での実践例もあるので参考にできる。</li> <li>■ 農産物の付加価値を高めることも必要。旭川市内のホテルなどに利用してもらう機会も増えてきている。個々では限度があるが、同じ志を持った人が合わさる機会を創出できれば、さらなる発展が見込まれるのでは。</li> <li>■ 町内に民泊施設ができたことはメリット。大きいツアーではなく、小規模でも農業を含めた観光体験の構築は見込める。町内会館の活用も見込めれば、さらに広がるのでは。</li> <li>■ 空いているハウスを使ってもらえるようなマッチングができると良い。農業に関わる人を増やしていくという観点で。</li> <li>■ ちよこつと農家の取組が広まることを望む。いろんな世代が農業に関わることができ、時期的な人手不足の農家もありがたい。</li> </ul>
<p>評価指標の設定</p>	<p>□ 取組の方針として、農業者目線からの魅力、非農業者目線からの魅力、どちらを重点にするかがポイントであり、事務局で協議を進めて設定していく。</p>

## 分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート【2023年度実績】

項目	<b>4 市街地エリアの魅力づくり</b>
目指す姿	まちの中心部である鷹栖市街地の賑わいの創出と地域交流の活性化を図り、定住人口を呼び込むことで、子どもから子育て世代、高齢者まで、全世代が生きがいをもって安心して暮らせる町を持続的に実現することを目指します。
取り組み方針	
<p>子どもに関する視点をキーワードとして、多世代の交流促進や様々な領域の施策を一体的に進めることで、あらゆる世代が安心して過ごせる住民満足度の高い市街地を形成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年少人口を呼び込むため、子育て世代のニーズに沿った住宅環境の充実を図ります。</li> <li>● 中心商店街ににぎわいを生む、起業や空き店舗活用などの取り組みを支援します。</li> <li>● 公民館事業やサロン活動、施設の利活用などを通して、多世代交流を促進するエリアづくりを進めます。</li> <li>● 高齢になっても希望を持って住み続けられる市街地を形成します。</li> </ul>	

### 1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	前期最終 (2023年度)	説明
①鷹栖市街地の年少人口の割合	12.5%	11.0%	10.5%	10.4%	年度末の数値を把握
②鷹栖市街地での起業実績	-	3件	0件	2件	町で把握
③鷹栖町に住み続けたい人の割合	82.0%	策定時以上	-	79.9%	後期計画策定時のアンケートで把握予定

### 2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
鷹栖市街地エリアマネジメント推進事業	5,421	6,774	5,889	24,256	30,654	72,994
移住定住の促進	37,274	37,818	50,945	32,847	29,781	188,665
新規開業支援事業	0	4,237	2,263	6,814	4,000	17,314
起業に向けたトライアル支援事業	0	0	0	0	0	0
継業に向けた調査研究事業	0	0	0	0	0	0

### 3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				想定される 理由	現在は、鷹栖市街地のエリアマネジメントに関する基本構想をまとめている段階であり、成果の発現は今後、具体的事業の実践にともなって発現が見込まれる。
目標値 達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で達成できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい				根拠	評価指標①は、想定より早い段階で減少している。要因を分析すると、年少人口が減少している一方、生産年齢人口は維持されており、割合に影響している面もある。今後、基本構想や計画をまとめ、それらに基づく具体的事業を、新規・見直しを図って実施することで目標値の達成を見込む。
前期期間 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				理由	鷹栖市街地の未来ビジョンを作成し、2件の起業実績などはあったものの、全体的な成果の発現までは期間内に至らなかった。
前期期間 目標値 達成状況	<input type="checkbox"/> 目標が達成できた <input type="checkbox"/> 一部の目標が達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成はできなかった				根拠	各種取り組みは進められてきたが、数値としての目標達成には至らなかった。評価指標③の減少については、アンケート結果から要因を分析して、後期計画につなげていく必要がある。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	住民参画による鷹栖市街地ビジョンの策定により、基本的な構想について打ち出すことはできた。並行して進められた「たかすマルシェ」や、慶應義塾大学など外部機関との連携など、構想実現に向けた実践が図られている。評価指標の達成には至っていないが、実践の継続による一定の成果の発現も見られたため、C評価している。					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して) 大きく前進した C: (策定時と比較して) 前進した D: (策定時と比較して) 変わらない E: (策定時と比較して) 後退した
			○			

#### 4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

<p>評価</p>	<p>町全体での新規開業数が多く、地域の活性化につながっている。一方で、継業については課題でもあり、商工会のみならず町としても力を入れていくべきでは。地域おこし協力隊を活用した継業モデルがスタートしており、成果をふまえて広がっていくことに期待。地区によっては商店が無く不便な声もあり、その解消につながる動きになることも望む。 移住施策は概ね評価できる。新規就農を目指す人へのアプローチの充実は見えているが、他にも働く場所があれば移住のきっかけになると考える。地域おこし協力隊のさらなる活用を含めて、町の魅力を発信しながら、多くの人に移住したくなるまちづくりに期待する。</p>					
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>	<p>A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した</p>
			○			

#### 5. 後期計画に向けて（総合振興計画策定委員会）

<p>取り組み方針</p>	<p>■鷹栖市街地に商業施設ができることは大変喜ばしい。重点施策3でも議論した、町内の特産品や農産物の販売などができる場づくり、仕組みづくりを進めてほしい。 ■農村部の高齢者など、交通弱者に対しての支援が必要。町営バスの活用など、より多くの人々が施設を利用できる支援を望む。</p>
<p>評価指標の設定</p>	<p>□商業施設の詳細や複合する施設の内容をふまえた、適切な指標の設定を検討する。</p>

## 分野横断的に取り組む重点施策評価検証シート 【2023年度実績】

項目	<b>5 地域運営の基盤づくり</b>
目指す姿	人口減少社会に対応して、地域課題を住民の力で解決していく基盤を構築していくことを目指します。
取り組み方針	
<p>公民館ごとの地区割りをベースとして、それぞれの地域に合った課題解決の仕組みづくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●実態調査や事例研究に取り組みながら、各地区と地域課題の解決に向けた進め方を協議します。</li> <li>●地域防災をテーマとした課題に対して、住民力によって解決を図る運営体制の検討を進めます。</li> <li>●次世代の地域づくりを担う人材の確保、育成に取り組めます。</li> <li>●地域づくりに関する知識や参画意欲を高めるための、学びの機会を継続して提供します。</li> <li>●まちづくりの様々な場面で、住民が参画しやすい環境づくりを進めます。</li> </ul>	

### 1. 評価指標

評価指標	策定時 (2019年度)	目標値	中間 (2021年度)	前期最終 (2023年度)	説明
①新たな地域運営体制の構築	-	構築	-	構築	R2～着手の地域運営モデル地区で検討
②自主防災組織の設立	-	設立	-	未設立	地域運営モデル地区で検討着手
③町民主体や協働で取り組む地域課題解決の新たな事業	-	20事業	13事業	27事業	町振興補助金、まちLabo等で把握
④まちづくりに関するワークショップ、セミナーの開催	-	毎年開催	毎年開催	毎年開催	まちづくりセミナー等の開催状況を把握
⑤行政計画策定時の住民参加機会の確保	-	確保	確保	確保	町で確保

### 2. 施策の成果と関連する主な実施計画事業の決算額(単位:千円)

事業名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	合計
持続可能な地域づくり推進事業	9,099	13,084	13,815	32,865	45,054	113,917
地域防災力の強化	300,356	2,046	24,061	8,567	6,879	341,909
住民参加のまちづくりの推進	869	758	1,063	1,578	1,793	6,061

### 3. 施策の達成状況と事務局評価

(1) 施策の達成度とその考察						
中間時の 成果評価	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				想定される 理由	「地域運営モデル地区」や「まちLabo」といった新規の取組を中心に推進しているところであり、主だった成果の発現はこれからを見込む。
目標値 達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成できる。 <input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能。 <input type="checkbox"/> 目標達成は難しい				根拠	評価指標の①②については、長期的な展望に基づき段階的に事業を進めており、前期計画期間内で一定の成果を期待できる。 ③は、まちLaboの取組などによって新たな動きや事業などの成果が見えてきており、前期計画期間内で目標値の達成が見込まれる。
前期期間 成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した				理由	R5から新たな地域運営組織による地域づくりがスタート。人的支援として、集落支援員を配置するなど、地域の課題解決に向けた基盤がつくられた。また「まちLabo」を中心に、協働での新たな事業も動き出すなど、人材育成、住民参画の促進など、成果が向上できた。
前期期間 目標値 達成状況	<input type="checkbox"/> 目標が達成できた <input checked="" type="checkbox"/> 一部の目標が達成できた <input type="checkbox"/> 目標達成はできなかった				根拠	評価指標①にて、地域運営組織を構築してスタートできたが、②の自主防災組織の設立までは至らなかった。③は目標を上回る取組がなされ、取り組み方針に掲げる内容の充実につながった。④⑤においても継続的な実施が図られた。
(2) 事務局(庁内)評価と今後の方向性						
評価	<p>各地区の地域運営組織については、「地域運営モデル地区」の取組をきっかけに、市街地地区においても住民センターの指定管理期間更新に合わせて進めることができた。拠点となる住民センターの管理と従来の公民館活動を一体的に取り組む基盤ができたことで、今後の地域課題解決に向けた体制となった。ただ、防災については取組としては各地区で進められたものの、組織としての設立までは至らず今後の課題でもある。住民参画の機会、学びの機会は継続して創出できており、指標③にて大きな成果をあげることができた。</p>					
評価	A	B	C	D	E	A: 実現した B: (策定時と比較して)大きく前進した C: (策定時と比較して)前進した D: (策定時と比較して)変わらない E: (策定時と比較して)後退した
		○				

#### 4. 外部評価（総合振興計画策定委員会）

<p>評価</p>	<p>地域運営組織は、構築して間もない部分もあるが、集落支援員の役割など、地区住民への継続した周知が必要である。自主防災についても、モデル地区で動いてきた地区は、一定程度の組織化が図られ災害対応時の地域の役割が見えている部分もある。市街地で同じようにはいかないが、地区の個性と工夫を生かしながら組織づくりが進むことを望む。まちLaboの取り組みについても、住民の継続的な活力を生かすためにも持続的な活動については、いずれ自立して活動できるよう町としてもサポート体制を継続していく必要があると感じる。</p> <p>地域運営は地区住民の負担も大きいのは確か。負担感が生じないよう持続性を高めていくのは永遠の課題ではあるが、担当部局が地区の声をしっかりと聴いて、協働で進めていくことに期待。</p>					
<p>評価</p>	<p>A</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>D</p>	<p>E</p>	<p>A: 実現した                  B: (策定時と比較して) 大きく前進した                  C: (策定時と比較して) 前進した                  D: (策定時と比較して) 変わらない                  E: (策定時と比較して) 後退した</p>
		<p>○</p>				

#### 5. 後期計画に向けて（総合振興計画策定委員会）

<p>取り組み方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自主防災組織については、どのような体制が望ましいのか、どのような体制を目指すのか、理解できていない住民が多いのでは。しっかりと図示して示せるような対策が必要。地区で育成を進める防災士の位置づけも含めて。</li> <li>■ 防災備品は分散して保管するほうが良いのでは。避難所となる各地区住民センターへの配置など、一極化ではない手法も検討を。</li> <li>■ 防災無線は一方通行であり、町民からのSOSをキャッチできる双方向の手法、システム構築を検討してみてもどうか。</li> <li>■ 地域運営組織は各地区で様々な事業に取り組んでいると感じる。一つの取り組みが、いろんな分野の要素に関連するものもあり、いろんな視点で考えていきたい。</li> </ul>
<p>評価指標の設定</p>	<p><input type="checkbox"/> 自主防災組織の在り方は、時代によって変化していくものでもある。設立のゴールが見えにくく、ハードルが高いように感じる。</p> <p><input type="checkbox"/> 防災士の育成を進めているので、各地区に配置するなど目標値に活用しては。</p>